

## 杵屋 勝国氏 事績

長唄三味線

新宿区中井二丁目在住

昭和 20 年福岡県みやま市生まれ。同 26 年杵屋勝寿女に入門、同 30 年に杵屋寿太郎に師事して 14 歳で名取となり、同 35 年から杵勝派 7 世家元杵屋勝三郎に師事し、翌年には九州杵勝会における「多摩川」で初の立三味線を務めた。高校 2 年生の折に上京し、杵屋勝三郎に本格的に師事したほか、同 38 年から東京藝術大学音楽学部邦楽科に入学し、山田抄太郎（重要無形文化財「長唄三味線」（各個認定）保持者）にも教えを受けた。以後も更なる研鑽に励み、同 55 年坂東玉三郎（重要無形文化財「歌舞伎女方」（各個認定）保持者）が踊る「鷺娘」、5 世中村勘九郎（後の 18 世中村勘三郎）が踊る「供奴」で、歌舞伎公演での立三味線を初めて務めた。

伝統的技法に裏打ちされ、間やノリの良さにも秀でた的確な演奏に対しては、長唄演奏家のみならず、多くの歌舞伎俳優や舞踊家などからも厚い信頼が寄せられている。そして、杵勝派にとり重要な杵勝三伝（「船弁慶」「虎狩」「安達ヶ原」）など多くの古典曲の演奏に加え、作曲にも力量を発揮している。

こうした活動に対しては、第 30 回松尾芸能賞優秀賞、平成 26 年度文化庁長官表彰、第 48 回 J X T G 音楽賞（邦楽部門）などが贈られている。

また、門下から多くの演奏家を輩出するばかりでなく、一般財団法人杵勝会理事長の任にあって、後継者育成に尽力している。

令和元年には、長唄三味線の技法を正しく体得し、かつ、これに精通しているとともに、その技法を高度に体現しているとして、重要無形文化財「長唄三味線」保持者に認定された。

## 経 歴 書 (抄)

氏 名 きね や 杵屋 かつ くに 勝国 ( 本名 む た ぐち 牟田口 てる くに 照國 )

生年月日 昭和 20 年 3 月 28 日

本 籍 東京都

現 住 所 東京都新宿区中井二丁目 XXXXXXXXXX

### 略 歴

- 昭和 26 年 杵屋勝寿女に入門
- 昭和 30 年 杵屋寿太郎に師事
- 昭和 32 年 福岡電気ホールの寿会「多摩川」にて初舞台
- 昭和 34 年 7 世家元杵屋勝三郎から、杵屋勝国の名を許される
- 昭和 35 年 7 世家元杵屋勝三郎に師事
- 昭和 36 年 九州杵勝会「多摩川」にて初めて立三味線を務める
- 昭和 38 年 東京藝術大学音楽学部邦楽科入学、山田抄太郎の指導を受ける
- 昭和 39 年 歌舞伎座「二人椀久」にて、歌舞伎座公演の初舞台
- 昭和 42 年 東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業
- 昭和 55 年 浅草公会堂「鷺娘」「供奴」にて初めて歌舞伎公演の立三味線を務める
- 平成 20 年 有明教育芸術短期大学教授 (同 24 年まで)
- 平成 21 年 第 30 回松尾芸能賞優秀賞
- 平成 22 年 財団法人杵勝会 (現 一般財団法人杵勝会) 理事長 (現在に至る)
- 平成 26 年 平成 26 年度文化庁長官表彰
- 平成 29 年 重要無形文化財「長唄」(総合認定) 保持者
- 平成 30 年 第 48 回 J X T G 音楽賞 (邦楽部門)
- 令和元年 重要無形文化財保持者 (人間国宝) 認定